



# 国際化の最前線から

## 国際化の最前線から



### 南米ブラジルから交通システムを学ぶ?! ～世界の新興国の自治体が注目するブラジル・クリチバ市の バスシステムを紹介～

兵庫県ブラジル事務所 元所長 彌城 正嗣

#### 都市は人間のためにあるべきである

兵庫県は、姉妹提携先であるブラジルパラナ州における南米初の工業技術センターや環境関連システム等の設置に協力して日伯の経済や科学技術交流に貢献してきた。2016年からは、実践的でより具体的な交流を進めるために兵庫県ブラジル事務所に直接事務所長（私はこの初代所長）を派遣している。

パラナ州クリチバ市は、1970年代に「都市は人間のためにあるべきである」という理念で交通システムを利便性・快適性に富んだ最新のシステムに刷新してきた。この考え方はクリチバ都市計画研究所（イプキ；研究員の半数が国内外からの研修で来ていて、交通政策、環境政策、土地利用などを学び実践してきた。ソウル市やジャカルタ市、南米のボゴタ市などは、このバスシステムを参考にして都市再生をした）で培われてきたものだ。当時、南米の主要都市でもモータリゼーションの到来とともに交通渋滞が始まっており、工業化で急激な人口増加が進みつつあった（70年代70万人→現在190万人；



市の中心街にあるチューブ型バス停とバス専用道路  
緊急車両や回送車両用に中心部に追い越しゾーンがある



チューブ型バス停内  
車いすも容易に乗車できる。乗降客が多いところではこのチューブを横に連結して広いスペースをつくる

クリチバ市では人口急増で交通システムの改善が不可欠。

#### バス・システムの統合

クリチバ市は、中心市街地から放射状に延びる幹線道にバス専用道路と所員常駐でバスの乗降口と同じ高さのチューブ型停留所（ターミナルを含めすべて自動昇降機付）を整備し、バスでは運賃の受取をしない3連結バス（1分以内で開閉する乗降口5か所）をエキス

プレス線として配備して大量の高速輸送を可能とした。また、この路線の主要地域約20か所にターミナルを設けてそこから枝線やその地域間を結ぶ地区間連結バスを走らせ、すべてのバス料金を約3.5レアル（百数十円）程度で乗り換え自由とした。また、世界でも早い段階から、プリペイドカードをすべてのバスやターミナルで使用可能として通勤客や高齢者（無料パス）等の利便性を高めた。

#### 本当の利便性

私はクリチバ市で最初の1年は通勤も買い物もバスを使っていた。車を運転するようになってからも週末市内に出かける時はバスをよく利用した。それは市内であれば、地下鉄などよりも、スピーディーで利便性が高く使いやすいからだ。ラッシュ時は、車を使うよりも一層速く、実はせっかちな日本人向きなのだ。バスなので増便も容易で、専用道路を使用しているため、時間も読める。エクスプレス以外のバスすべてに自動昇降機がつけられていて、ハンディキャップがある人でも容易に使える。また、バス専用道路は、救急車やパトカー等の緊急車両だけは通行ができ、混雑時であっても緊急車両の速い移動が守られている。このシステムは朝夕など混雑する日本の地域にも参考になるのではないだろうか。

#### プロフィール

彌城 正嗣（やしろ せいじ）  
民間企業の営業マンを経験後、兵庫県に入庁。外国人登録をはじめ技術研修員等の受入れや南米県人会や中国との協力事業を主に担当、イベント事務局、外国企業誘致や中小企業の海外展開支援後、県ブラジル事務所の直接派遣の初代所長を経験し退職。現在は、南米等海外から来日した外国人のお世話などフリーランスとして活動。  
クリア発足時に、主にJETプログラムスタート時の業務部門で3省に加え法務省や関係機関との調整、大手旅行代理店・航空会社や空港公団等の協力を得て1,000人を超える外国人青年の在外でのリクルートから渡航、全体研修、各地方自治体への配属までのシステム形成と実施に携わった。